



非日常を体験できる大人の遊び場 十津川村『空中の村』 ～フランスの技術を活かした新しい森の遊び方を提案～

■林業再生に向けての新たな取り組み

奈良県の最南端に位置する十津川村は、村の約96%以上を森林資源が占めることから、林業が盛んな地域として知られてきた。しかし長期的な木材価格の低迷や人口減少による林業従事者の不足などにより林業が徐々に衰退したため、危機感を持った村は2012年から林業再生に向け、様々な取り組みを進めている。

■フランス式の森林管理方法を取り入れた「空中の村」が誕生

「空中の村」は2020年4月、「21世紀の森・紀伊半島森林植物公園」の一角にフランスの技術を活かしたレクリエーション施設としてオープンした。施設の発案者はフランス、グルノーブル出身のジョラン・フェレリ氏で2014年大学院への進学をきっかけに来日し、2016年から十津川村の地域おこし協力隊として活動を始めた。フランスでは森の管理に森林のレクリエーション機能を利用する方法がある。同じような取り組みが十津川村の林業や地域の魅力発信に繋がると考えたフェレリ氏は、フランスの技術者と共に「空中の村」を建設し、現在も日本とフランスの架け橋として活動している。

同施設には、地上4～12mの木々の上に雄大な景色を眺めながらお菓子や飲み物を楽しめるテラスや、昼寝や読書ができる大きなネットのハンモックもある。特に木々の間につり橋のように張り巡らされたネットの上を行き来する様子はまるで空の上を歩いているような感覚を楽しめると人気を集め、年間約5,000人が訪れる観光スポットとなっている。

ネットを固定する際に直接木にワイヤーを巻きつけると、木が窒息して枯れてしまう。こうした木のストレスを軽減するために木に「あて木」を使用することや、遊具や遊歩道に敷き詰められている間伐材チップに地元十津川村の木材を使用す

るなど、施設内は「木を守る、木と共存する」というフランスの理念に基づく工夫がされている。こうした新しい取り組みは数々の賞を受賞し、メディアにも取り上げられたことから、新しい森の活用事例として全国から関心が寄せられている。

■新しい森の利用方法を十津川から全国へ

7月には新たに夜の森で宿泊できるキャンプサイトがオープンした。つり橋を渡って入る高さ約10mの場所にあるツリーハウスや、森の中に浮かぶ空中テント、屋根が透明で星が見える透明ドームなど、森と調和するよう今回もフランスの技術が活かされている。満点の星空が広がる夜や、鳥の声で目覚める朝など森の中で非日常が体験できるとして注目される。季節ごとに変化する木々の色や空気、森や土の匂いを直接感じることもできるこの空間が、新しい森の利用方法として全国へ広がり、各地域の活性化へとつながることが期待される。

(村井 渚)



(左上から時計回りに) ツリーハウス、空中散歩を楽しめる網のつり橋、透明ドーム、透明ドームの室内

【空中の村】

- ・所在地：奈良県吉野郡十津川村大字小川 112
(21世紀の森・紀伊半島森林植物公園内)
- ・TEL：0746-62-0567
- ・HP：<https://kuuchuu-no-mura.com/>
料金等については、HPをご確認ください。